

# 教職課程における「総合的な学習の時間」の課題

Approaches to the Teaching Method of “The Period of Integrated Study”  
in Teacher Training Course Curriculum

桑 村 佐和子  
KUWAMURA Sawako

## 1. はじめに

「総合的な学習の時間」は学習指導要領の平成10年の改訂によって誕生した。平成10年の教育課程審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」では、創設の趣旨として、「各学校が地域や学校の実態等に応じて、創意工夫しながら特色ある教育活動を展開する時間の確保」と「自ら学び考える力などの「生きる力」、国際化や情報化等の社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するための教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を実施する時間の確保」を挙げている。平成8年の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」で示された「生きる力」とは、「①自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、②自らを律し、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、③たくましく生きるための健康や体力、などからなる資質・能力」をいう。そのような力は人々が生涯にわたって学び続ける基礎となる力でもある。

この「総合的な学習の時間」はそれぞれの学校が創意工夫をし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めることを求めていたため（平成10年教育課程審議会答申）、文部科学省は敢えてひな形を提示しなかったが、そのことによって学校による差が大きくなる結果となっている。本稿では、「総合的な学習の時間」を受けてきた大学生による振り返り調査

によって、「総合的な学習の時間」の実態と評価等を探り、教員養成における「総合的な学習の時間」の指導の在り方の一端を検討する。

## 2. 「総合的な学習の時間」の概要

「総合的な学習の時間」は、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」、「情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付けること」、「問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育成すること」、「自己の生き方を考えることができるようにすること」をねらいとしている。児童生徒が自己主導的な学習者になり、自己の人生を切り開けるような人となるように訓練する機会として考えられた、教科とは異なる新しい学習活動であった。

先述したように、この「総合的な学習の時間」はそれぞれの学校での創意工夫が求められていたため、その内容、方法を当初は文部科学省として示すことはなかったが、それでは進められないという現場からの声に応える形で具体的な内容が例示された。例えば、「国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題」、「児童生徒の興味・関心に基づく課題。高等学校においては、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動」「地域や学校の特色に応じた課題」、「高等学校においては、自己の在り方、行き方や進路について考察する学習

活動」である。これらは、その後、国際理解、情報、環境、福祉・健康、伝統と文化、防災、まちづくり、キャリア、社会と政治、その他(自己理解、進路研究、自主設定テーマ探究等)に分類されていく。

実施にあたっての配慮事項としては、「自然体験活動やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表、討論、ものづくりや生産活動などの体験的な学習、問題解決的な学習の積極的な導入(高等学校においては、就業体験を含む)」、「グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態の導入(高等学校においては、個人研究を含む)」、「地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となった指導体制」、「地域の教材や学習環境の積極的な活用」、「小学校で外国語会話等を行うときには、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど、体験的な学習が行われるようにする」、「高等学校の総合学科においては、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の進化、総合化を図る学習活動を含む」ことが示された。また、「高等学校の職業学科においては「課題研究等」(看護学科では「看護臨床実習」、福祉学科では「社会福祉演習」)と同様の成果が期待できる場合には、「総合的な学習の時間」における学習活動をもって「課題研究等」の履修の一部または全部に変えることができ、また「課題研究等」の履修をもって「総合的な学習の時間」における学習活動の一部または全部に替えることができる」とされることで、高校での体験の有無に差が生まれている。

「総合的な学習の時間」の授業時間数は、廃止も取りざたされる中で変更はなく、下記の通りである。

- ・小学校においては、第3学年以上とし、第3学年、第4学年が105単位時間、第5学年、第6学年が110時間を配当する。
- ・中学校においては、第1学年が70～100単位時間、第2学年が70～105単位時間、第3学年が70～130単位時間を配当する。
- ・高等学校においては、卒業までに105ないし210単位時間を標準とし、各学校が適切に配当する。

・盲学校、聾学校及び看護学校においては、必要な授業時数を各学校が適切に定める。

運用にあたっては、「総合的な学習の時間」はいわゆる教科とは違うため、評価の方法も違う。「活動や学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、児童生徒の良い点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて評価する」ことが求められ、指導要録の記載については、「評定は行わず、所見等を記述することが適当である」とされている。

### 3. 「総合的な学習の時間」の実施状況

それでは、そのような「総合的な学習の時間」はどのように運用され、それを受けてきた学生達はどのように評価しているのだろうか。「総合的な学習の時間」はすぐに結果が点数となって現れるような授業ではなく、その評価は難しいところがある。生涯学習の基盤としての学ぶ意欲を育て、自己主導的な学習者になるための授業であることを考えると、学生による振り返りの評価はこの時間の成果を測る評価として意味があるだろう。それはまた、大学における教員養成での「総合的な学習の時間」の指導法を考える上でも前提としておく必要がある。

#### (1) 調査の概要

##### 1) 対象と調査日時

- ① 学部2年教職課程履修者40人 2017年10月11日
- ② 学部1年教職課程履修者48人 2017年10月30日

##### 2) 調査項目

- ①出身校の属性(小学校、中学校、高校のそれぞれについて、公立、私立、国立、その他の別。高校についてはさらに、普通科、専門学科、総合学科、その他の別)
- ②小学校から高校までのそれぞれの「総合的な学習の時間」の内容と、その授業に対する感想(「楽しかった」「主体的だった」「有意義だった」のそれぞれについて、「そう思う」～「思わない」の4段階で回答を求めた。)

- ③中学校の「総合的な学習の時間」の運用の状況（具体的な項目は、表2参照）
- ④小学校から高校までを通しての感想（具体的な項目は表3参照）
- ⑤「総合的な学習の時間」を通して身についた力（具体的な項目は表4参照）
- ⑥今後の「総合的な学習の時間」についての意見（具体的な項目は表5参照）

## (2) 被調査者の出身校種

「総合的な学習の時間」は小、中学校では全校で実施であるが、高校では学科によって様子が異なる。普通科は全ての生徒に履修させるものとしているが、研究モデル校やスーパーサイエンスハイスクールなどの場合には、いわゆる「総合的な学習の時間」ではなく実施することが認められている。また、専門学科では、「職業教育を主とする専門学科においては、総合的な学習の時間の履修により、農業、工業、商業、水産、家庭若しくは情報の各教科に属する「課題研究」、「看護臨地実習」又は「介護総合演習」（以下この項において「課題研究等」という。）の履修と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間の履修をもって課題研究等の履修の一部又は全部に替えることができる。また、課題研究等の履修により、総合的な学習の時間の履修と同様の成果が期待できる場合においては、課題研究等の履修をもって総合的な学習の時間の履修の一部又は全部に替えることができる」とされている。さらに総合学科では、1年生で「産業社会と人間」を原則履修科目とし、2、3年生で「総合的な学習の時間」を履修させることによって、探究的な学習ができるようにしている。

平成27年度の文部科学省の調査によると、平成27年度公立校入学者では、全年次で実施している学校が85.0%であるのに対し、専門学科では特例等で77.2%、総合学科では2、3年次で実施しているところが73.4%であった。このように公立高校の全日制課程でも、学科によって実施学年は大きく異なっている。今回の被調査者は、普通科56人（63.6%）、専門

学科25人（28.4%）、総合学科6人（6.8%）、その他1人（1.1%）であった。高校の「総合的な学習の時間」については、覚えていないだけでなく、受けていない学生もいることが推測される。

## (3) 「総合的な学習の時間」への関わり方

学校によって様々な取組があるが、全体的に見ると、小学校の時（表1-1）はどちらかといえば楽しかったものの、主体的に参加していた人は約半数であったことが分かる。それと共に、「有意義だった」と考えている人の比率も落ちている。それに対して、表1-2の中学生をみると、小学生に比べると「楽しかった」と答える比率は減っているものの、主体的に関わったり、有意義だと感じるところはあまり変わらない。さらに表1-3の高校生をみると、先に述べたように体験していない学生もある程度いることが予想され、無回答が増える。そのため、無回答を除いて比率を出してみると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた、「楽しかった」人、「主体的だった」人は約6割、「有意義だった」人は約7割という結果であった。高校での「総合的な学習の時間」の方がもともと目指されていた、主体的な学習がしやすいのかもしれない。

## (4) 「総合的な学習の時間」の運用

「総合的な学習の時間」が始められた当初、この時間が補習や自習、文化祭・体育祭の準備や席替えの時間に使われるという指摘があった。今回の被調査者の場合も（表2）、中学時代の「総合的な学習の時間」で、3人に2人が「文化祭や体育祭、運動会の準備などに使われたことがあった」、4人に1人が「補充学習のような特定の教科の知識・技能の習得を図ることがあった」と回答している。一方で、「ア.小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取組の重複があった」人は少なく、学校種で特色を持った授業が行われていたようである。また、外部講師を呼んだり（約4割）、学校外の施設に行く（約5割）など、学校の積極的な取組がなされている姿も見える。

表 1-1 小学校の時の「総合的な学習の時間」

% (人)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
楽しかった	22.7 (20)	45.5 (40)	15.9 (14)	6.8 (6)	9.1 (8)	100 (88)
主体的だった	14.8 (13)	31.8 (28)	38.6 (22)	5.7 (5)	9.1 (8)	100 (88)
有意義だった	13.6 (12)	45.5 (40)	25.0 (22)	6.8 (6)	9.1 (8)	100 (88)

表 1-2 中学校の時の「総合的な学習の時間」

% (人)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
楽しかった	14.8 (13)	37.5 (33)	21.6 (19)	11.4 (10)	14.8 (13)	100 (88)
主体的だった	11.4 (10)	33.0 (29)	31.8 (28)	8.0 (7)	15.9 (14)	100 (88)
有意義だった	12.5 (11)	37.5 (33)	28.4 (25)	5.7 (5)	15.9 (14)	100 (88)

表 1-3 高校の時の「総合的な学習の時間」

% (人)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
楽しかった	18.2 (16)	22.7 (20)	20.5 (18)	8.0 (7)	30.7 (27)	100 (88)
主体的だった	13.6 (12)	27.3 (24)	19.3 (17)	9.1 (8)	30.7 (27)	100 (88)
有意義だった	21.6 (19)	27.3 (24)	11.4 (10)	9.1 (8)	30.7 (27)	100 (88)



表2 中学校の「総合的な学習の時間」の運用 % (人)

ア. 小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取組の重複があった	14.8(13)
イ. 補充学習のような特定の教科の知識・技能の習得を図ることがあった	25.0(22)
ウ. 文化祭や体育祭、運動会の準備などに使われたことがあった	67.0(59)
エ. 「総合的な学習の時間」に外部講師が来ることがあった	37.5(33)
オ. 「総合的な学習の時間」を利用して、学校外の施設に行くことがあった	47.7(42)
カ. 上記のようなことはなかった、あるいは覚えていない	20.5(18)

※複数回答

表3 「総合的な学習の時間」で感じたこと % (人)

ア. 他の教科等の学習活動にも積極的に取り組むようになった	2.3(2)
イ. それまでに身につけた知識、技能を活用し、その有用性を実感した	11.4(10)
ウ. 見方が広がり、さらにそのこと（あるいは関連したこと）を学習したいと思った	29.5(26)
エ. それまで学んできた知識等が具体的になり、理解が深まった	19.3(17)
オ. 学んだことを自分と結びつけて、自分の成長を自覚した	9.1(8)
カ. 学んだことを元に、自分の生き方を考えた	21.6(19)
キ. 身近な人々や社会のことに興味・関心がわき、意欲的に関わろうと思った	20.5(18)
ク. 自然への興味・関心が高まり、意欲的に関わろうと思った	19.3(17)
ケ. 「総合的な学習の時間」は自分の将来のために役に立つと思った	21.6(19)
コ. 上記のようなことを感じたことはなかった	34.1(30)

※複数回答

### (5) 「総合的な学習の時間」で感じたこと

小学校から高校までの間で「総合的な学習の時間」で感じたこと（表3）をみると、中では比率が高いのは「ウ. 見方が広がり、さらにそのこと（あるいは関連したこと）を学習したいと思った」で約3割であった。主体的な学習者が育てられつつあることが推測される。

### (6) 「総合的な学習の時間」によって養成される力

それでは、現行の「総合的な学習の時間」ではどのような力を身につけることができているのだろうか。本稿では、学習指導要領に示されている、表4中のア～ケの9つの能力について「総合的な学習の時間」を通して身についたと感じているかどうかを5段階で評価してもらった。

その結果、表4のように、「ややそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「ウ. 自ら調

べ、考える」「ク. 他の人に自分の意見を伝える」「キ. 多様な他者と意見交換する」の順で、「総合的な学習の時間」によって身につけることができたと考える人が多い。これらは、「総合的な学習の時間」で調べ学習を取り入れ、その成果をグループで発表させる、という方法を取る学校が多いことの表れかもしれない。逆に、「そう思わない」「あまりそう思わない」を合わせると、「イ. 課題を見つける」力と「オ. 学び方を身につける」ことについては効果を感じていない学生が多いようである。「総合的な学習の時間」の目的が「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」であることを考えると、また生涯学習支援の観点からも、これは残念な結果と言えるだろうが、あくまでも学生の感想であるため、実際にはどうであるかはさらに検討を加える必要がある。

表4 「総合的な学習の時間」によって身についたと思う力 % (人)

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も 言 え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う	無 回 答	合 計
ア. 教科の枠を超えて知識を結びつける	11.4 (10)	20.5 (18)	21.6 (19)	34.1 (30)	11.4 (10)	1.1 (1)	100.0 (88)
イ. 課題を見つける	11.4 (10)	26.1 (23)	23.9 (21)	31.8 (28)	4.5 (4)	0.0 (0)	100.0 (88)
ウ. 自ら調べ、考える	8.0 (7)	18.2 (16)	14.8 (13)	38.6 (34)	21.6 (19)	0.0 (0)	100.0 (88)
エ. 主体的に判断する	8.0 (7)	18.2 (16)	21.6 (19)	33.0 (29)	19.3 (17)	0.0 (0)	100.0 (88)
オ. 学び方を身につける	13.6 (12)	30.7 (27)	20.5 (18)	25.0 (22)	10.2 (9)	0.0 (0)	100.0 (88)
カ. 新たなものの考え方を身につける	11.4 (10)	15.9 (14)	20.5 (18)	35.2 (31)	17.0 (15)	0.0 (0)	100.0 (88)
キ. 多様な他者と意見交換する	10.2 (9)	9.1 (8)	23.9 (21)	31.8 (28)	25.0 (22)	0.0 (0)	100.0 (88)
ク. 他の人に自分の意見を伝える	10.2 (9)	5.7 (5)	26.1 (23)	37.5 (33)	20.5 (18)	0.0 (0)	100.0 (88)
ケ. 他の人に働きかける	9.1 (8)	20.5 (18)	36.4 (32)	20.5 (18)	13.6 (12)	0.0 (0)	100.0 (88)

(7) 「総合的な学習の時間」の今後について

忘れてしまったと回答する学生も多く、一部の学生にとっては印象の薄い「総合的な学習の時間」について、学生達はどのように考えているのだろうか。表5をみると、印象がないために判断できない(「分からない」とする学生も約3分の1いるものの、今のままで良いのではないかとする学生も約3分の1いる。無くしてしまっても良いのではないかとする学生が約1割、もう少し充実を図ったら意味が出てくるのではないかと考える学生が2割弱いる。

それぞれの理由についてさらに見ると、表6のようになっている。充実を図った方が良いと考える学生も、時間を増やすというよりも内容を吟味すべきという意見が多いようである。また、今のままで良

表5 今後の展開 % (人)

時間を増やすなど充実を図った方が良い	18.2(16)
今のままで良い	34.1(30)
無くしても良い	11.4(10)
分からない	36.4(32)
計	100.0(88)

い、という学生にもその意見が見られる。また、印象が薄いことも問題として捉えており、充実を図るか無くすかのどちらかではないか、と考えられている。

表6 今後の展開の理由

- ①「時間を増やすなど充実を図った方が良い」理由
- ・自分の考えを表現することが苦手になってきている世間において、プレゼンなどの授業を設ける必要があると感じるから。そのために総合を使用すればよいと思う。
  - ・勉強方法など具体的に学校側が教えてくれなかったため。そういうことを教える時間を増やしてほしいと思ったからです。課題に対してのやり方を具体的に教えてほしかったです。
  - ・やった内容を少し忘れてしまいましたが、The勉強というよりは、社会に出て役立つ知識や人として勉強になることがあったなあと思うからです。
  - ・普段経験できないことに取り組むチャンスでもあると思うから。
  - ・学校の外に出て活動するのは必要だと思う。授業の補充など、便利時間として使われることが多かったのです。
  - ・先生以外の大人の人と接する貴重な機会だった。時々こういう授業があるとリフレッシュになるし、無駄なことではないと思う。
  - ・増やさなくてもよいが充実はさせたほうが良いとは思った。自分はどれも積極的にかかわった覚えがないので、「総合」は授業に印象がなかったかもしれないが、一番、自分について、自分のために(勉強)考えることができたのはそういう学科以外の授業だと思う。それでも、学校側?先生もそんなに力を入れていた様子じゃなかった気がする。
  - ・単純に楽しかったのと、理科や社会科に興味を持てた。今でもよく覚えている思い出になっている。イベントが楽しくて学校が好きになった。
  - ・まだまだできることが自分はあったと思うから。
  - ・もっと課外活動を増やして、学校外での学びの実践的な活動をし、それに対する生徒の学びの議論の場を作った方が良くと思ったから。
  - ・他の授業を補う時間としてのイメージが強い。もっとちゃんとした授業を受けてみたかった。

- ・時間数を増やす必要はないと思いますが、例えば1年を通してボランティア活動の一つ一つ報告するなど文章を書くことによって教科の枠を超えて知識を身につけたか、リーダーシップを発揮できたか、チームワークができたかと自己評価できれば良いと思います。
  - ・時間は増やさないにしても20歳過ぎたあとも覚えているような充実した内容になれば良いと思ったからです。
  - ・やりたいことのある、もしくは授業に物足りなさを感じる生徒が羽を伸ばせる。もしくはそうでない生徒であっても、睡眠などに時間を充てることができる。
- ②「今のままで良い」理由
- ・授業内容はあまり覚えていないが、毎週そういった時間があつたことは覚えているので、内容をもっと濃くして、そのままの時間でいいと思う。(暇だと感じるが多かった)
  - ・変わらなくても今のままで十分だから
  - ・あつて得たものがあるかと言われると思ひ浮かばないけど、なかったら息抜きできない。週のうち何回かこういう時間がないと本当にしんどいと思う。
  - ・増やすほど大事ではないけど、無くすかわりに何を入れるんだと言われても思ひつかないの。幅広く何でも学べる時間として残しておけばいいんじゃないかと。
  - ・毎週1時間だけある総合の時間が、よい意味で息抜きができる授業だったので、増えてくれたらうれしいとは思ひ。でも、週1で十分な気がするし、週1だからこそその良さがあるのではないだろうか?と思う。
  - ・今のままで十分だと思うからです。
  - ・割と都合のいいように授業内容を変えやすい授業だったので、そういうのがあるのは生徒にとつても教師にとつてもいいのでは。何かの力がつくかどうかといえは実感ないのでわかりませんが、力を使う時間(テストではなく)は必要だと思います。
  - ・増やそうとも増やさなくともその授業をする意味、目的が十分に理解されていないと全く無意味なものになりかねないから。
  - ・人とのコミュニケーションの場になると思ひし、時間数はそこまで増やさなくとも、ある程度ためになるので、このままの状態のままでよいと思います。

- ・総合の時間が楽しい思い出になったし、様々なものと十分触れ合えるものだったから。
- ・差別されがちな社会的マイノリティへの理解が深まり有意義だった（高等学校）。小、中は正直ほとんど覚えていない。
- ・他の教科との兼ね合いもあると思うので、自分が受けていた程度で適切かと思います。
- ・授業時間数はそのまま、大学生になった今でも役に立つような授業をして欲しいと思います。でないと、何のために総合の時間を取っているのか分からないです。
- ・増やした方が良いとも思わないし、かといって、それを他の教科の時間に充てられてしまうのは、ある意味他者との関わりが減るということも人によってはあると思うので、自分の時の状況が当たり障りのない感じでしょうか良いのではないかと思います。
- ・いろんなことに使える時間だと思うので、今ぐらいの良で良いと思う。
- ・特に問題は無かった
- ・高校の総合の授業はかなり有意義で、自分の興味以外のことにも考えが及んだから。
- ・運良く自分はほどよく段階を踏んで研究ができるようになったので。
- ・思い出してみれば有意義だった。
- ・多様な科目の交差点のような役割は必要だと思うから。
- ・無くすのは嫌だが、増やせば良いとも考えていないから。
- ・総合の時間を増やしすぎても他の教科の勉強ができなくなるし、そこまで沢山の時間を取る必要はないと思う。今のままでよし。
- ・ただもう少し学習するための方法を教えて欲しかったです。

### ③「無くしても良い」理由

- ・特に意味を感じたことがない。
- ・意欲的に「総合的な学習の時間」を過ごそうとしている生徒が少なかったように感じる。
- ・あまり覚えていないので、何の時間だったのか、改めて不思議な気持ちになったから。
- ・空き時間をつぶすために活動しているような状態だったから。あらかじめ予定やカリキュラムがしっかり定

まっていればあってもよいと思う。

- ・総合的な学習の時間があまり印象に残っていないから
- ・高校では余り覚えがない。たぶんなかったと思うので、小中などでいろんなことを経験するのは良いけれど、高校ではなくても不都合があるとは思えないからです。
- ・まともに覚えていないレベルのことしかやってない。なくて良い。
- ・何の時間か分からないから。落書きの時間としてはありでしたけど。
- ・そんな抽象的な時間は結局何を学んだとかそう言うのが分かりづらいから。
- ・記憶に残るようなことをしていないので、もっと有意義なことをして欲しい。もしくは無くても良い。

### ④「分からない」と考える理由

- ・本来の目的の授業がなされれば問題はないが、やはり運動会（体育祭）、文化祭など行事関連に使われることも多く、「総合的な学習」の意味をどのようにとらえてよいかわからないため。
- ・あまり何をやったか覚えていないから。クラスの決め事や社会見学は総合の時間にやったかもしれない。
- ・話を聞いていても実感や共感ができなかったから。
- ・どのような学習をしたかを覚えていないため、何も言うことができないから。
- ・自分でも「総合」を捉えあぐねているため。
- ・内容をいまいち覚えていないからです。
- ・大学受験を変える必要があると思うため。総合学習と今の受験勉強の両方のモチベーションを維持するのは難しい。中学校、小学校での総合学習は有意義であると思うが、高校生の場合、今の受験と総合的な学習の結びつきが弱いから。
- ・中高に関しては完全に“行事などの準備で、放課後にやるには時間がかかるし、先生も見えてないといけない類の作業”をする時間だったと思う。この時間があつたので、学校が回っていた面もあるが、教育上の意義はほとんどないように思える。
- ・総合の時間があつたかどうか覚えていないほど、自分には印象に残らない授業だったと思う。この授業の意図が分からないので、授業の行い方が問題なのか、自分が不真面目だったのかわからない。



- ・自分が受けた内容であれば時間を増やす必要性があまり感じられないが、もっと有意義なものであるならば、時間を増やし、充実させるべきだと思う。
- ・覚えていないので。
- ・“何にでも使える時間”みたいになりすぎていて、学校、先生によって有意義か否かに差がありすぎる。
- ・自分にとって有意義であっても他の人はそうではないのかもしれないから。けれどいろんなことをすればプラスであれマイナスであれ良い経験になると思う。
- ・小・中・高とも記憶があいまいで役に立ったかどうかの判断が難しかったから。
- ・時間数を増やすというよりも中身の充実を考えるべき。私の時は、席替えとかそのようなことにしか使っていた覚えがないから。興味がなくて、覚えていないというのかもしれないけれど、それほど心に残らなかった授業だったんだと思う。
- ・総合的な学習の時間がそもそも何なのか？ 道德の時間とは違うのか？ いつ、どのくらいの頻度で取られていたのか正直ほとんどわからないから。
- ・今は総合的な学習の時間のことをもてあましていところが多いと思うので、時間を増やすよりもこの時間を活用する方法を考えた方が良いと思う。
- ・内容が弱すぎて“総合的な学習”とは何か分からない。
- ・何が生徒にとって一番効果的なのかが分からないから。
- ・教師にとっての都合の良い時間として総合の時間が使われるとしたらなくても良いと思うが、本当に生徒のために使われるとしたらあっても良いと思う。
- ・最終的に他の教科の補習に使われるぐらいなら、授業数を減らしても良いのではとも思うが、実際自分が総合的な学習で学んだものを無駄だとは思わないから。

徳の時間との違いが分からないとする学生もおり、具体的なイメージを共有することが難しいようである。しかし、どの学校種での体験によるものかは分からないながら、「総合的な学習の時間」が本来ねらっていた成果を感じている学生達もいることが明らかとなった。

今後の教職課程で「総合的な学習の時間」を取り扱うときの留意点について、本稿ではその一端を考察しておくこととする。本学は、中学・高校の美術科と高校の工芸科の教員免許を取得することができる。学生は、それらの専門に関する授業を行うことへの意識は高いが、「総合的な学習の時間」を指導するという意識は相対的に高くない。それはその時間に対する印象が薄く、その意義に対する理解が浅いことが理由として考えられる。

そのため、「総合的な学習の時間」の指導法について学ぶ前に、学生達がこれまで受けてきた「総合的な学習の時間」がどのようなものであったかを思い出す、あるいはその成果に気づくことにある程度時間をかけることから始める必要があるのではないだろうか。さらに、それにはどのようなねらいがあり、教える立場から考えたときに、どのようなことが行われていたか（行われる必要があるか）を想像することが大切ではないかと思われる。その上で、実際には覚えていない、あるいは意味がなかったのではないかと感じてきた「総合的な学習の時間」を学生同士でも再考し、その指導計画の立て方を学ぶことが必要である。その際には、この「総合的な学習の時間」が内包している、生涯学習支援という側面への理解を深めることが必要であろう。

#### 4. 教職課程での指導のために

今回の調査結果によると、学生達の受けてきた「総合的な学習の時間」の授業には差があり、それによって印象が大きく異なっているようである。これは他の自由度の高い教科の場合にもあてはまるかもしれないが、学校独自の工夫を求めた「総合的な学習の時間」では、それ以上の差があるように思われる。また、全く記憶にないとする学生や、特別活動や道

(くわむら・さわこ 一般教育等/教育学)  
(2017年11月7日 受理)

